



¡MÉXICO MÁXICO!

メヒコ マヒコ - 魅惑の国メキシコ - Sep. 2017



【Vol.1】怒濤のメキシコ生活 1 ヶ月目

メキシコ空港で記念撮影！



自己紹介

深谷市出身の新井陽子と申します。日本では、学生時代に西洋美術史と文化財保護を専攻し、修了後は神奈川県内の美術館に勤務していました。中米に数年滞在したことがきっかけでラテンアメリカ地域に関心を持ち、メキシコへ数回旅行で訪れた際に遺跡や文化遺産の多さと迫力に魅せられ、改めてメキシコで自分の専門を勉強したいと思い本研修に応募しました。

1年間の研修中、メキシコシティでスペイン語力の向上とメキシコ美術について吸収したいほか、各地方を訪れて歴史を体感したいと考えています。

家探しとメキシコの住宅事情

メキシコシティへは、成田空港発の直行便で約 13 時間。日本とほぼ昼夜逆転の時差なので到着時はとても眠いのですが、その日の夜から約 1 週間オリエンテーションが行われます。その隙き間時間にやらなければならないのが住居探し。限られた時間のなか、Web サイトで物件を探し、電話で交渉、内見を重ね、メキシコシティ南部のコヨアカン地域に決めることができました。

メキシコでは、シェアハウスのように家の一部の空き部屋を貸し出す形が一般的です。理由として、大家族の子ども達が成人後は空き部屋がたくさんでしまうことと、土地税（住宅税）がかかるためだそうです。



エントランスからの様子



自室の窓からは中庭が見えます

家主はとても親切で、毎日私の拙いスペイン語会話に気長に付き合ってくれ、的確に直してくれます。同居しているメンバーは、私を含めて全員で 6 名。メキシコ人心理カウンセラーのパーティ、タバスコ州出身の建築家パオラ、インド人天体物理学者のチャーニー、カナダ人フランス語教師のノエミ、同期の日墨生と私です。西語・英語・仏語が混じり、混乱しつつ笑い合う毎日です。

8・9 月はちょうど雨期にあたるため、毎日空を見上げながら洗濯のタイミングを見極めるのが日課でもあります。メキシコシティは標高が 2,000m を越える高地で朝晩冷え込むため、防寒対策も考え中です。

UNAM と CEPE

メキシコ到着後にメキシコシティ南部にあるメキシコ国立自治大学 (UNAM: ウナム) の付属語学学校 (CEPE: セペ) で語学テストを受け、8 月下旬より秋セメスターが始まっています。UNAM と言えば、世界遺産に登録されている中央図書館の壁画が有名。CEPE はちょうどこの図書館の裏側にあります。UNAM のキャンパス内はとても広いので、構内を走る無料の循環バスで移動するのがマストです。

図書館前は憩いの場





独立記念日に向けた飾り付けも！

CEPE では午前中に文法クラス、午後には文化クラスが開講されています。私の所属する文法クラスでは、パキスタン人 1 名、韓国人 1 名、中国人 2 名、日本人 2 名の計 6 名でアットホームな雰囲気の中勉強しています。

メキシコのスペイン語はまだうまく聞き取れず、聞き直す場面も多いです。メキシコ人の知り合いに聞いたところ、被植民地だった影響から、スペインのスペイン語に比べて非常に丁寧な言い回しをする傾向があるとのこと。一般的に、皆さん穏やかにゆっくりと話される方が多いため、外国人の身からすると何度も聞き返せるので気持ちが楽です。

メキシコシティの郷土料理

日本と同じく縦長の国土を持つメキシコ。風土に合わせた各地方の伝統料理があります。先日大好きになったメキシコシティ料理のひとつが“ポソレ(Pozole)”。豚や牛の頭と大粒トウモロコシ、野菜、唐辛子を煮込んだ濃厚なスープで、ラディッシュや千切りレタスを載せてライムを絞り、トスターダ(Tostada：揚げトルティーヤ)と一緒に食べる料理です。ここ連日食べ比べをした結果、お店によってスープがあっさりしているなど特徴があって興味深いです。どうしても食べたい…でも外へ食べに行くのはちょっと…と思った場合でも、スーパーで缶詰(800g)が 40 ペソ(約 240 円)で売っているほどのお馴染み料理です。



赤いスープは少しピリ辛

身近なインディヘナ文化

毎週末、市内のどこかでお祭りがあるメキシコ。先週末はインディヘナ文化の見本市を覗いてきました。刺繍入りの服や民芸品、蜂蜜、ハーブなどが販売されていたほか、伝統球技のパフォーマンスもありました。

個人的に最も興味をひいたのは、インディヘナのおまじない体験ブース。両手を広げるように言われ、その後はおじちゃんに香炉の煙を焚かれ、花束で頭から足先までバシバシ叩かれ(かなり痛い)、茶色い水を掛けられ、ホラ貝を吹いてもらって終了です。どうやら健康とお金が貯まるお祈りだったようで、貴重な体験ができました。



奥に見える円はマヤのカレンダー

文化地区コヨアカン

家があるコヨアカン地区は、閑静な住宅地やカフェ、美術館や映画館がある文化地域です。かつてフリーダ・カーロやディエゴ・リベラなど、メキシコを代表する芸術家が住んでいた場所でもあり、今も多くの芸術系イベントが開催されています。そして、仏教寺院などもあるため、アジア的な雰囲気が垣間見られる地域でもあります。先日は家の斜向いにある哲学系協会にて日本の墨絵に関するワークショップに参加してきました。

メキシコでは、美術館や博物館といった文化施設が週末に無料開放されることが多いので、これからどんどん市内へ繰り出していきたいと思っています。



静かにデモンストレーション中